

・明るく・温かく・明日に向かって



K J V A

高知県小学生バレーボール連盟
広報委員会通信

No, 18

令和5年11月 日

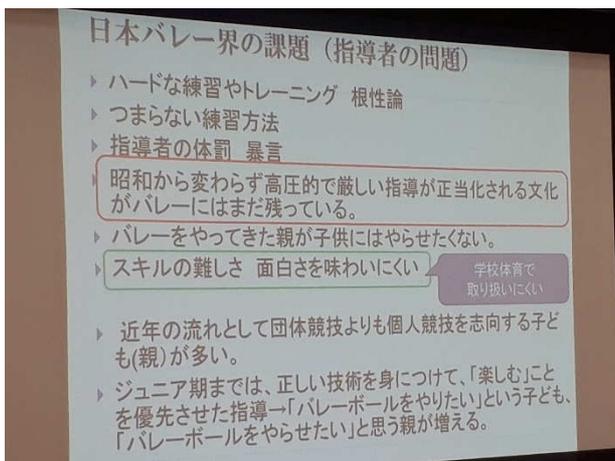
全国小学生バレーボール 指導者 講習会

深秋の秋となりました。スポーツには絶好の気候です。皆様、公私ともにご活躍のことと察します。

10月は、各週末に夏季大会や四国大会等の県小連関係の大会・行事等が入り、多忙極める1カ月でした。11月3日（金）4日（土）には、香北体育センターにて、日本小学生バレーボール連盟一次講習会（高知会場）も開催されました。80名近くの受講者が集まり、その中でも新規受講者が61名も参加していただき、賑わった2日間となりました。また若い方々も多く、講師の先生（森氏・河合氏・松尾氏 の3氏）から楽しいバレーボールへの具体的な道筋やプレーヤーズセンターの考え方、指導方法の改善がチームを伸ばす最善の方法であることなどを教えてもらい、今後への展望が開ける充実した講習会となりました。

運営に携わっていただいた役員及び関係者の方々、本当にお疲れ様でした。

一次講習会



日本のスポーツアニメ史から見た、スポーツ観の変遷について(記:竹村)

昭和30年半ば生まれの方々には、共通した思い出ではないだろうか。『生まれた頃、家には、テレビがなかった。テレビは、となりの家で見るものであった。幼少期。東京オリンピックが行われた。そして、家にテレビがやってきた。その時には、世の中が変わったように思えた。あの感覚以上の新鮮な感覚は未だに味わえていない。』というような思い出を・・・。

日本人が受けた東京オリンピックの感動はきっと、計り知れないほどの大きさがあったのだろう。先の大戦での敗戦後、打ちのめされていた日本人のプライドが、再び花開ききっかけになったことは間違いない。オリンピックで優勝した東洋の魔女「バレーボール女子」、柔道で惜しくも金を逃しはしたが、大男ヘーシングに最後まで食らいついていった「神永」、国立競技場で抜かれはしたが、死力を尽くし42.195kmを走り切ってゴールした円谷幸喜選手。幼少期であった私たちにも、強烈に残っている。その時代に中心として活躍していた大人や若者たちには、さらに大きな影響力を残したはずである。

どんな影響か、それをオリンピック後に人気を博したスポーツアニメが表している。まずは、「巨人の星」プロ野球選手を目指す親子の話であるが、今で言えば完全に幼児虐待。気づいた人は必ず通報しないと、その方も罰せられるぐらいの、父星一徹の悪態の数々である。それに感動し、耐える飛雄馬に同情しつつも応援し、そして憧れて、成長していく視聴者。異様な光景であるが、その当時は何の疑いもなかった。それぐらいテレビの影響力が強かったのだろう。

バレーボールアニメで言えば、「アタックNo.1」。実写版ドラマで言えば「サインはV」どちらも、東京オリンピックで活躍した「東洋の魔女」を彷彿させるような、スパルタ根性ドラマである。厳しく鍛えれば鍛えるほど、強くなる、という東京オリンピック神話に洗脳させられたストーリーであった。これによってバレーボール人気は、日本中を席卷したが、それによって、未だにバレーボール界から、コンプライアンス事案が後を絶たない、という皮肉、悲劇を生んである。ボクシング漫画の決定版「あしたのジョー」。自らの厳しい境遇からの脱出をボクシングに託すストーリーは、戦争後に生きる難しさを味合わされていた子どもたちの光となったと言える。しかし画面に映し出される、一コマ一コマは、壮絶という言葉がピッタリの汗と血のおいのする漫画であった。最後ジョーが亡くなった時、私はかわいそうという感覚よりもほっとした感覚の方が強く残っていたことを思い出す。スポーツとはここまで、つらいものなのだろうかという疑問も感じたアニメであった。

その後、高度成長期からオイルショックを迎え、頑張っても成果が見えない時代が到来し、所謂スポ根ドラマが一挙に影を潜めていった。そして変わって登場したのが、「タッチ」やおちょう夫人で有名な「エースをねらえ」などの、恋愛も少し入った軽めのスポーツアニメである。努力は否定せずとも、絶対的な指導者に付いていきながらの栄光ではなくて、自らが自らを高める努力に重きを置いての栄光への階段である。この流れは、今のスポーツアニメの源流であり、今日も続いている。

バブル期を超え、男の子は野球、女の子はサッカー、という時代に、ストップをかけたのが「Jリーグ開幕」「キャプテン翼」から日本の津々浦々まで広がったサッカー人気だった。サッカーは、個人の技量の要素が強く、個人技の上に成り立つ団体スポーツである。一人でもゴールを狙おうと思えば狙える団体スポーツである。故に指導者のしごきが、バレーボールや野球ほど効果的でない気がする。ある程度自由が認められ、個人が目立ちやすいスポーツである。これは、バレーボールにとっては、マイナスのように見えるが、結果としてはプラスであったと思える。なぜならこれをきっかけに、指導方法の改善に向かっていけたからである。今は個性の時代、そしてエンジョイスportsの時代である。バスケットボールや卓球だけでなく、パラスポーツからも喜びや感動をもらえる時代である。個を活かしたスポーツ、個を最大限に伸ばす、指導者、そしてポリシーを持ったチームへの世の中の需要は高い。「ハイキュー!!」から、ジュニアバレーボールに向かったという子どもたちが激増している理由には、このような背景がある。